広告特集 企画・制作 朝日新聞社メディアビジネス局

対立や紛争を理解し解決への道筋を拓く

長崎大学大学院 多文化社会学研究科 2018年4月開設

長崎大学に新設される本研究科は、文理の枠組みを超えた幅広い教養(基盤必修科目群)を修得し、その成果を基にして実践的に総括していくという、進化したリベラルアーツを目指している。首藤教授(研究科長就任予定)に、本研究科の特色や魅力、これからの展望などを聞いた。

長崎大学 多文化社会学部 教授 首藤 明和

開かれた問題群に挑む日本で唯一の「尖った」大学院

1990年代初頭の東西冷戦構造の崩壊から、世界の枠組みは大きく変わった。イデオロギーだけでなく文化や宗教などのさまざまな要素が対立軸となり、さらに欧米中心からアジア・アフリカなどを含めたボーダーレスな多中心的世界に転換していった。このような多文化社会的状況では、政治・経済・社会・歴史はもとより、科学、技術、心理、身体、自然等の問題群が錯綜しており、既存の学問的分業ではその状況に十分に応えられない。例えば福島原発事故への対処は、人文社会科学系と自然科学系の枠組みを超えた知識が必要。つまり時代や社会が、学問を超えて劇的に転換しているのだ。

このような状況の中で「多文化社会学研究科」は、「人文社会科学系グローバル人材の育成」を目的として2014年度に設置した「多文化社会学部」の学術的な専門性と社会的な実践性を一層高めるために構想された。「文部科学省からは、日本で唯一の〝尖った大学院〟を目指すようにと期待されています」と語る首藤教授。その〝尖った〟個性はチャレンジ精神にあふれたカリキュラム体系にある。

世界に開かれた海港都市で、被爆を経験した長崎大学ならではの特性を生かしたカリキュラムが魅力。

専門を高めるだけでなく専門を大きく広げていく

本研究科では全員が必修の学問のエレメンツ(基盤必修科目群)で問題の本質を見極める力と、専門知の領域を超えた活用のための力を養成する。そして学問のプラクティス(専門・実践科目群)で、多様な利害関係の立場を考慮しながら最善の解決策を提示する、問題解決型の実践研究を進めていく。

学問のエレメンツとプラクティスの両軸を連携・統合・展開する体系はリベラルアーツを現代の錯綜した社会状況に合わせ、さらに発展させたものだ。この21世紀型リベラルアーツの特徴は従来の学問領域を超えた専門性。「専門を深めるだけでなく、専門を広げていく画期的なカリキュラムです」と首藤教授は説明する。

プラクティスの科目群には、被爆大学ならではの「核軍縮・不拡散科目群」がある。ここでは文理融合の知識を身に付けて研究と実務の両側面から、人道・安全保障・経済の問題について専門的解決を図っていく。

キーワードは幅広い教養と専門知。本研究科は領域を超え、視点を高く、視野を広くして、問題の発見・説明・予測・解決に取り組むことのできる人材を育成する。

教員・院生一体のアクティブな雰囲気

人材育成の例として注目したいのが「多文化社会学セミナー」。これは、科目群ごとに分かれている院生が共に履修する領域横断型のもので、ひとつの学問領域では解決不可能な多文化社会状況に、実践的な解決の道筋を見出だす力を養成する。

少人数教育を基本とし、講義・演習はマンツーマン的できめの細かな教授法やディスカッションを重視している。

「海外経験選択科目」は各自の研究テーマや将来の進路に合わせて留学・フィールドワーク・インターンシップ等を自主的に選択するアグレッシブな科目だ。入試は学部卒業生だけでなく、社会人、外国人留学生にも広く開放している。原則として年齢制限はない。教員スタッフが平均年齢40代と若く、院生と教員の距離も近くなるだろう。

「トリリンガル(3カ国語を話す)がスタンダードなのも特徴」と首藤教授は言う。「何かを生み出す雰囲気」がすでに出来上がりつつあるという本研究科。ジャーナリスト、政治家、社会環境・国際問題のアナリスト、発掘調査員、マーケッター、国際機関スタッフなど「尖った」真にグローバルな人材の輩出が期待される。

学長メッセージ

開明性と多様性を生かした「挑戦する大学院」

長崎大学 学長 河野 茂

近年、国立大学が法人化され、少子高齢化が進み受験生が減少する中、国立大学にも確たる個性が求められています。では、長崎大学はどこに光るものがあるのか。どこを伸ばしていくのか。その答えのひとつが人文社会科学系の「多文化社会学部」の設立です。背景にあったのは地域独自の開明性や、総合大学の多様性という本学ならではの個性だと思います。これにより文理9学部がそろいました。

そして、新しい人文社会科学系大学院が開設します。大学院教育においてはグローバルに通用する教育課程の編成が急務であり、「多文化社会学研究科」では学問のエレメンツとプラクティスで構成される新しいリベラルアーツというべきカリキュラム体系を整えました。長崎とのつながりが深い東洋文庫、さらには国立歴史民俗博物館との、大学の枠を超えた包括連携も推進しています。

長崎大学で学ぶ人に望むのは「挑戦」する姿勢です。「多文化社会学研究科」のような環境は私たちが整えます。どうぞ自ら選んだその場所で、思いきりチャレンジしてください。

学問のエレメンツ(基盤必修科目群)

人文社会科学

存在論 → 認識論 → 方法論

人文社会科学の概念や理論を、学問の土台的基礎(存在論・認識論・方法論)に位置付け直し、各専門領域の射程と限界を批判的に検討。

▼

多文化社会学の修得

専門知を超域的に活用し、方法論としての成熟化を図る。

▲

徹底的な専門性の養成 →

学問のプラクティス

グローバル・スタディーズ科目群

- 文化的他者への理解と共感に基づき、超域的に知と人を繋ぐことで、民族・宗教・文化・国家の摩擦や対立について、専門的解決を図っていく。

政策科学科目群

- 国際関係論(上からの視点)と地球上で生活する人々の視点(下からの視点)が調和した「世界政策論」を開拓し、政策・制度・規範と人間の安全に関わる問題について専門的解決を図っていく。

環海日本長崎学・アジア研究科目群

- 人文科学と社会科学の連携に基づく観点から、日本・アジアと世界の交流のなかで生じる歴史・文化・社会の問題について専門的解決を図っていく。

言語多様性科目群

- 言語学の多様性を文法的・音声的特性,文化社会的規則や発話レベルの特性から捉え、言語に関わる問題について専門的解決を図っていく。

核軍縮・不拡散科目群

- 核軍縮・不拡散分野において人文社会科学と自然科学を融合し研究と実務の両側面を兼ね備えることで、人道面・安全保障・経済の問題について専門的解決を図っていく。

東洋文庫、国立歴史民俗博物館と連携 長崎とのつながりから多文化社会学の新たな可能性を

長崎大学は、公益財団法人・東洋文庫と包括連携協定を結んでいる。東洋文庫は、長崎造船所などでこの地とつながりの深い三菱財閥第三代当主・岩崎久彌が設立した、東洋学分野で日本最古・最大の図書館。世界五大東洋学研究図書館のひとつにも数えられている。

長崎大学大学院多文化社会学研究科は、東洋文庫と連動して「多文化社会学」の学術的な専門性と社会的な実践性をより一層高めていく。具体的には、東洋文庫研究員による長崎大学での集中講義開講、サマーセミナー等で東洋文庫の資料を活用しながらの研究指導、アジア歴史世界の史料研究、世界各国との学術交流協定をベースにした研究指導を実施する。世界唯一の多文化社会学・東西研究教育拠点として、オリエンタルスタディーズの体系的提供にも期待を寄せている。

国立歴史民俗博物館とも包括連携協定を結んでいる。博物館の研究者による講義、院生への教育指導、フィールドワークへの参加、研究者との共同調査・研究(総合資料学)や、双方が所蔵する歴史資料・文献等の利用も計画されている。

長崎大学と東洋文庫、国立歴史民俗博物館とのコラボレーションは、教員のレベル向上や、カリキュラムのさらなる充実だけでなく、多文化社会学における「人文科学系×社会科学系」という新たな学問への可能性も開く。

東洋文庫は1924年に設立。蔵書数は約100万冊。この中には国宝5点重要文化財7点が含まれている。広汎なアジア研究も手掛けている。

TOYO BUNKO 東洋文庫

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館 National Museum of Japanese History

---

平成30年度入試概要 長崎大学大学院 多文化社会学研究科

国立大学法人 長崎大学 NAGASAKI UNIVERSITY

専攻名称	入学定員	学位名称		
多文化社会学専攻	10名	修士(学術)		
出願期間	平成29年12月11日(月)～12月22日(金)17:00			
入学試験日時	平成30年2月13日(火)	9:30～11:30	120分	専門科目
		12:30～14:00	90分	外国語
		14:30～	—	面接

新研究科の求める人材像

❶グローバル世界の人間と社会・文化を理解し、課題に挑戦する人材
❷国際社会の問題を発見し、将来への展望を見出す人材
❸多様な文化や歴史を踏まえ、人類の発展と幸福に貢献することに関心を持つ人材

出願前に必ず希望する指導教員と事前に連絡を取り、受験や研究内容・指導言語について十分相談しておく必要があります。指導教員の連絡先がわからない場合は、長崎大学文教地区事務部学務課(多文化社会学部担当)へメールで希望する指導教員及び研究内容を連絡してください。
(E-Mail:hss_gakumu@ml.nagasaki-u.ac.jp)

長崎大学文教地区事務部学務課(多文化社会学部担当)
〒852-8521 長崎県長崎市文教町1-14
電話:095-819-2975
Mail:hss_gakumu@ml.nagasaki-u.ac.jp
http://www.hss.nagasaki-u.ac.jp

長崎大学多文化社会学研究科スマホサイト